

漁業者と連携した 貝殻人工魚礁「JFシェルナース」の開発

【農林水産大臣賞受賞者】
片山 敬一（海洋建設株式会社）

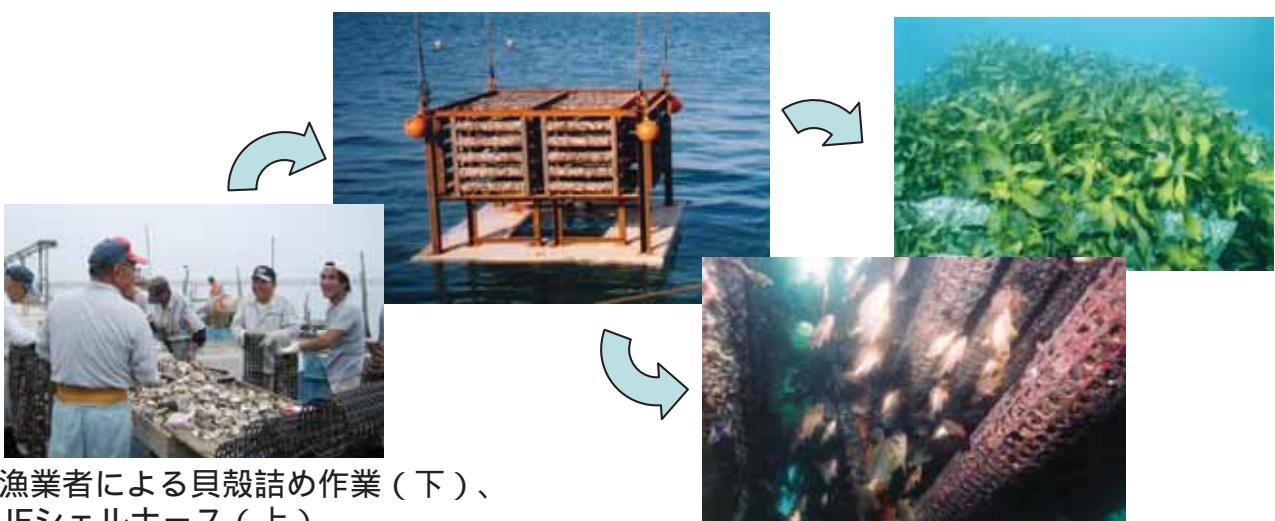
【開発の背景】

沿岸部の開発等による生息場の減少に伴い、魚介類資源も減少しつつあります。また、貝類養殖産地で発生する貝殻の処理が問題になっていたことから、貝殻の有効利用と、水産資源の増産を目的とした貝殻人工魚礁の開発を行いました。

【開発内容】

開発した貝殼魚礁「JFシェルナース」は、メッシュパイプに貝殼をつめたものをパネル状に組立てたもので、貝殼等が形成する多種多様な空間が、魚介類の増殖に重要な餌場と隠れ場の機能に優れていることから、漁場・増殖場造成に寄与しています。

また、メッシュパイプに貝殼を詰める作業は、漁業者によって行われており、漁閑期の雇用創出にも役立ちます。



漁業者による貝殼詰め作業（下）、
JFシェルナース（上）

魚礁に集まるメバル（下）、繁茂した海藻（上）

【成果の普及状況】

平成7年度から平成19年度までに26道府県に約7100基が設置され、貝殼を詰める作業は13県の漁業者が参加し、およそ4300tの貝殼がバイオマス資源として有効利用されました。

【功績評価のポイント】

藻場の減少により消失している魚介類の成育場所を確保し、資源の増産に寄与するほか、貝殼処理問題の有効な解決手段としても期待できる。また、漁業者自身が製作に携り、漁閑期の雇用創出、水産資源増殖に対する啓蒙効果も認められる。